



ふれあいのまち つるかぶと

第129号

発行所 鶴甲ふれあいのまちづくり協議会
〒657-0011(鶴甲小学校内)
神戸市灘区鶴甲2丁目10-1
Tel 078-822-8709

発行者 野田比奈 Tel 078-821-9218

編集者 広報部会 Tel 078-822-8709

印刷所 イバ紙器印刷工業所
Tel 078-231-5735
神戸市中央区琴ノ緒町1-2-229

新年のつどいを終えて 神戸市立鶴甲小学校長

一月十日(土)に新年のつどいが、ふれあいのまちづくり協議会が中心となって本校運動場で開催されました。当日は温かく、外にいても過ごしやすい気候でした。

まず、運動場で「どんと焼き」が行われました。この行事の起源は平安時代から行われている「左義長」と言われています。正月飾りを燃やした煙を見ながら、正月に家に来てくれた年神様を見送るとともに、無病息災・家内安全を祈願する昔からの行事です。また書き初めの練習で書いた半紙を燃やす時、高く灰が舞い上がると字が上手になると言われています。

当日は冬休み中に竹藪から切取った竹を一定の長さに切り分け、笹の葉と一緒にしっかりと乾燥させた物を使用しました。慣れた手つきで手際よく組み立てられた枠組みに、地域の方々から持参した正月飾りや本校児童が練習で書いた書き初め作品を入れたら完成です。いよいよ、学童コーナーの児童によるどんと焼きの説明の後、点火が行われました。「ばちばち」と勢いよく音を立てて激しく燃え上がる炎の勢いで、たくさんの方々の願いが届くこ

とでしよう。また、子供たちの字もきつと上手になることでしょう。どんと焼きの準備をしている間に行われていたのが「餅つき」です。こちらも昔ながらの杵と臼を使って熱々の蒸したもち米をつき、粘りのある餅に仕上げていきます。また、餅つき体験も行われ、子供たちは思い通りに狙った所に杵を振り下ろす難しさを知ることができました。出来上がった餅は、ぜんざいとして来校されたみなさんに振舞われ、「美味しいね」と笑顔の花がたくさん咲きました。

部屋の中では正月の昔遊びが行われていて、たくさんの子供たちが大学生のお兄さん・お姉さんたちと一緒に遊ぶ姿を見かけました。こうして、多くの地域の方々をはじめ、大学生たちの協力もあって、無事に新年のつどいが幕を閉じました。

私は本校勤務三年目を迎えますが、何よりも地域の方々が強い信頼関係でつながった協力体制と、地域にしっかりと根付いた伝統行事の数々にいつも驚かされます。これから先、この鶴甲地域がますます盛り上がるためには、将来、この地域の担い手となる人材育成が急務だと思えます。こうした手作りの伝統行事に参加し、楽しい時間を共有した子供たちが、鶴甲地域を誇りに思い、愛着を抱いてくれることを切に願っています。

どんとやき

私は、どんとやきのはつびょうは、きんちようしたけれど、みんな上手にはつびょうできていて、すごいなと思いました。たくさんはつびょうのれん習をしたので、本番でせいこうしたと思います。

私がどんとやきにさんかした理由は、みんなにどんとやきのことをしつてほしかったからです。

どんとやきはテレビですこしだけみたことあるけど、何をするのかはしらなかつたので調べ学習をして、書きぞめをもやすことや、ちいきごとによつてどんとやきのよび方がちがうことをしりました。一番びつくりしたのはどんとやきでおさつや、おふだをやくことです。「まだつかえるんじゃないのかな?」と思ったからです。さんかできてよかつたです。来年もさんかしたいです。

2026



はじめてのどんとやき

私は、三年生になってはじめてどんとやき(新年のつどい)にさんかしました。どんとやきのはつびょうにさんかしたかつたりゆうは、人前ではつびょうしたり大きい声でしゃべるのがとくいなのと、楽しそうだとおもつたからです。さいしよは、じしんまんまんだったけどはつびょうする日になるとどんとやきさんちようしてきました。けれど、うまくはつびょうすることができたのでよかつたです。はじめて大きなもぞうしに字や絵を書いたので、むずかしかつたです。

どんとやきについてしらべた時に、かきぞめをもやすことはしつていたけれど、おさつやだるまをもやすことをしつておどろきました。

新年のつどい

ふれまぢが企画する

新年のつどいは「どんと焼き」「お餅つき」「ふれあいサロン」「正月遊び」を企画。

一月十日、好天に恵まれ行いました。

どんと焼きは、事前の竹取より始まります。組立は長年鶴甲児童館が担当、今年も見事などんと焼き飾りが出来上がりました。

どんと焼きの由来は家々神様を迎えたしめ飾りや書き物を天に還すとの意味がある様です。

児童館の生徒さんが説明の後、点火!竹の「パーン」「パーン」とはせる音、舞い上がる「火の子」

勇壮な火祭り、今年一年の安全を祈る火祭り災害のない一年であります様に祈りました。お餅つき、見事に蒸し上がった餅米を大人の指導で「よいしよ、よいしよ」と杵を使う子供たち、臼にぶつげながら一生懸命です。丸餅を作るにも大人たちの指導が必要(粉が入った餅はカビが出来やすいのです)出来立ての餅は「ぜんざい」にして子供たちに食べてもらいました。

ふれあいサロンは、「コーヒー」「お菓子」「ぜんざい」を用意。関係者の皆様や、参加者の皆様の自由な集い、楽しい団欒の場となりました。別室の正月遊び羽根つき、かるた、お手玉、囲碁将棋等、神大の学生ボランティアの皆様が子供たちを遊ばせて下さいました。

こうして委員や地域の皆様の協力により安全に終了致しました。



神戸大学児童文化研究会

新年の集いにスタッフとして参加し、どんと焼きの設営やかるた・羽子板などの昔遊びを通して子供たちと触れ合いました。普段の大学生活では関わる事が少ない、幅広い世代の方々と交流できたことは、私にとつて非常に貴重な経験となりました。

どんと焼きの櫓に火が入ると、舞い上がる煤に子供たちは歓声を上げ、風下へ走つて手を伸ばしていました。それとは対照的に、煤を避けて風上へ逃げてしまつた自分に少しの寂しさを覚えしました。しかし同時に、煤だらけになることも厭われない子供たちの無邪気さと、それを温かく見守る地域の方々の眼差しに、鶴甲ならではの「ぬくもり」を強く感じました。

今の時代だからこそ、子供たちが地域とのつながりを肌で感じられるようイベントはとても重要なものだと思います。この日の思い出が将来彼らの心に温かく残り、鶴甲という場所が、いつまでも彼らの心の拠り所であり続けてほしいと願っています。

地域安全の絆
鶴甲つながりの手

について

(災害時要援護者支援組織)
鶴甲つながりの手

一九九五(平成7)年1月17日の阪神・淡路大震災当時、プライベート保護の観点から、個人情報取り扱いが壁になり、ご高齢の方や障がいをお持ちの方など「要援護者」の方々が、逃げ遅れたり、あるいは避難しても適切な支援措置が講じられず、お亡くなりになった方々が少なくありませんでした。

その後、二〇〇四(平成16)年10月23日の中越地震、二〇一一(平成23年)3月11日の東日本大震災に於いても対応の遅れが指摘されました。

神戸市で「神戸市における災害要支援者への支援に関する条例を神戸市議会の与党4党派(民主党神戸市会議員団、自由民主党神戸市会議員団、公明党神戸市会議員団、自民党神戸市から二〇一一(平成24)年第4回定例会に上程され二〇一三(平成25)年3月定例会市会で可決成立しました。

(1)要介護度3以上
(2)身体障害者手帳1、2級
(3)療育手帳内
(4)世帯主である65歳以上の単身高齢者の
(5)世帯主及び世帯員共に75歳以上の者
(6)その他市長が認める者が、要援護者規定
その後、二〇一六(平成28)年3月22日の灘区安全会議に於いて各小学校区内団体に要援護者を支援する仕組みを要請されました。

二〇一六(平成28)年4月に熊本で震度7の激震に2度も襲われました。また南海トラフ地震の発生確率が高い中、阪神・淡路大震災を経験している私達は新たに立ち向かわなければと、福祉を担当する鶴甲ふれあいのまちづくり協議会、防災を担当する鶴甲防災福祉コミュニティ、一人暮らし高齢者の見守り活動担当の鶴甲民生委員・児童委員協議会の三者が支援についての取り組みを開始しました。

二〇一七(平成29)年5月14日迄の9回にわたって鶴甲の生い立ち、半世紀にわたって培われた特性、自然環境などをベースに、望ましい方向性を探りました。それは「緩やかな交流」「お互い様のやさしさ」「あいさつができる関係」でした。

それらを土台に会の名称を「鶴甲つながりの手」とし、「いざ」の時の支援を行動規範としてまとめました。

本年も1月31日(土)に二〇二五(令和7)年度の支援者のつどい(総会)を鶴甲地域福祉センターで開催しました。出席は47名講師1名の合計48名でした。

開催に先立ち、野田会長の発声で阪神・淡路大震災の犠牲者を悼み黙祷を捧げる。引き続き支援者のつどい(総会)の開会を宣言し、神戸ルミナリエの謂われ、震災犠牲者に対する鎮魂のためであるとの由であった。

二〇一七(平成29)年4月の発足時の要援護者は二五二名で、支援者は一二八名でした。要援護者に対する支援活動は続けていきたいと思えます。

議事1①、今期実施した主事業令和6年〜7年5月、神戸市に登録された新要援護者台帳を貸与されました。総数二六〇名内一八六名が新規登録者で5月に新規登録者に「黄色いタオル」を配布し地震発生時の使い方を文書で説明した。

②6月21日灘区消防団のインストラクター5名により「ケガの手当」講習会を開催した。参加者25名、当日の参加者を含む支援者一二五名にケガの手当対応の資材、包帯、絆創膏、滅菌ガーゼ等のセットを配布した。

③当期最大の課題であった要援護者と支援者マッチングを作成し、10月支援者の皆様に配布、お願いした。

議事2、会計報告(令和7年4月1日〜令和7年12月31日)

高野会計報告(内容読み上げ)式会計は令和8年3月31日迄ですが、助成申請額は一九九〇五八円ですが、支出金額は二〇八五三三円で不足分はふれまちからの支援を予定。

議事3、令和8年度事業計画

飯井事務局長より提案
新しいマッチングにより震度5の地震発生を仮定、安否確認の模擬訓練実施する。

本日鶴甲地区連合自治会の丸田会長も出席されているので、来年度は連合自治会と一緒に安否確認、避難模擬訓練を実施する。

各ブロック、鶴甲一丁目、二丁目、四丁目、五丁目、鶴甲3丁目・水車新田、六甲台町に分かれて話し合いをして頂きました。(14時〜14時30分迄)

講演会
「スロー地震で探る
南海トラフ巨大地震」
講師 神戸大学都市安全
研究センター 広瀬 仁

地震とは断層がブレ動く現象。スロー地震は断層が地震を起こさないでゆっくりとずれる現象

南海トラフ地震
ユーラシアプレートに対しフィリピン海プレートが落ち込みその反撥で発生
まとめ
・巨大地震想定震源域の周辺で断層のすべり(スロー地震)が発生している。
・それは巨大地震の震源により地震発生が進む方向へ影響すると考えられる。
・次の巨大地震への準備が着実に進んでいる。

パークフェスティバル 出店者募集

日時: 5月23日(土) 午前10時~午後2時まで

場所: 鶴甲公園(通称:北公園) 雨天の時は5月24日(日)に順延



【ガレージコミュニティスペース募集】

【チャリティーバザー物品募集】

出店料 1ブース: 鶴甲小学校区の方は 700円

(衣類以外の品物をお願いします)

: その他の方は 1,500円

5月22日(金)までに、地域福祉センターへ

子ども 1ブース: 350円

お持ちください。

お申し込み受付は、5月8日(金)~22日(金)までに鶴甲地域交流センター(822-8709)へ

「神戸市立鶴甲地域福祉センター」は

「神戸市立鶴甲地域交流センター」に変わります

2026年(令和8年)4月1日(水)より、名称変更に伴い開館時間、予約方法、料金等の変更もあります。

詳しくは、広報紙と一緒に投函されたA4のお知らせをご確認下さい。

鶴甲地域交流センターは指定管理者として鶴甲ふれあいのまち協議会が管理運営します。

施設名称を変更し、「地域活動の促進・地域社会の課題解決に寄与する施設」として市民の皆さまにより活用してもらえる施設を目指していきます」

(KOBE webサイト「地域福祉センター」より引用)

年末夜回り報告とお礼 灘防犯協会鶴甲支部

年末夜回りを、12月24、25、26日の三日間行いました。拍子木に合わせ、「戸締り用心・火の用心。特殊詐欺には気を付けよう。子供の安全守りましょう」と大声で年末警戒を呼びかけながら鶴甲全域を巡回しました。

参加者延べ66人。高齢者のご参加に助けられていた中で、初めてご参加の若い方もあり、小学高学年のこれまでの美鈴さん、光馬さん、柚月さんに加え、ゆいとさん、かずたけさん、かおるさん、ともやさんが参加してくださり、有難いことでした。

最終日は田林灘防犯協会長より感謝と激励のお言葉を頂きましたが、「地域に不審者や犯罪者を寄せ付けないためには、普段からご近所での挨拶が大事、こちらから率先して挨拶をし、ゆるやかなご近所関係を作っておくのが大事」とのことでした。

夜間、寒い中のご参加に心より感謝し、地域の安全安心のため、今後も変わらずよろしくお申し込み申し上げます。



活動のお知らせ

【3B体操教室】

毎月第2(月)10:30-11:30

受講料500円 要申込

【ゆうゆう喫茶】

毎月第4(火)10:00-11:30

100円

【手作り絵本教室】

毎月第2(土)10:00-11:30

画用紙代400円

地域福祉センターでの活動は、地域交流センターになっても変わらず継続します。新年度を迎えても引き続きご参加下さい。尚、鶴甲地域交流センターは小学校併設のセンターのため、夜間・日曜祝日の利用は、利用者に対して指定管理者の承認が必要になります。



編集後記

2月8日衆院選の前日から雪、選挙当日は鶴甲も朝雪景色で迎えました。坂道の多い鶴甲では投票には最悪のコンディションでしたが、所々で子どもたちが作ったと思われる小さな雪だるまがありました。私はこの日から腰を痛めて一週間はつらい状況でした。翌日月曜日の朝は本格的に雪が積もって③系統のバスは運休状態と久しぶりの雪による影響がありました。私は前日より腰を痛めて家から出れず影響は受けませんでした(笑)ただ一週間はつらい状況でした。そんな状況で広報紙の編集作業も進まず大変な状況に追い込まれながらやりくりして印刷屋さんのご協力もあり出来ました。(宇都宮)

